JVC

デジタルワイヤレスインターカムシステム

型名 **WD-D10 シリーズ**

取扱説明書
（設置・施工設計編）

B5A-0479-00

もくじ

はじめに

設計

設置

設定

補足情報

この取扱説明書の見かた

■本文中の記号の見かた

ご注意：　操作上の注意が書かれています。

メモ：　機能や使用上の制限など、参考になる内容が書かれています。

☞　参考ページや参照項目を示しています。

■本書の記載内容について

● 本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標、または登録商標です。本書では ™、®、© などのマークは省略してあります。

● 本書に記載されたデザイン、仕様、その他の内容については、改善のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

■絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容 (表示と意味) をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

警告　この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示の例

△ 記号は、注意 (危険・警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。図の近くに具体的な注意内容を示しています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) を示しています。

● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容 (左図の場合は AC プラグをコンセントから抜く) を示しています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

警告

電源（AC100 V）の接続には十分ご注意ください。誤った配線・接続は火災や感電の原因となります。

- 電源は AC100 V 以外で使用しない。
- 電源ケーブルを束ねて使用しない。
- 電源プラグやコンセントにほこりや金属が付着したまま使用しない。また、半年に一度はプラグを抜いて乾いた布で拭く。
- 電源プラグをコンセントに接続するときは、根元まで確実に差し込む。
- 機器は、コンセントの近くに設置する。また、電源プラグが抜きやすいように設置する。

警告

万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のときは、すぐに電源スイッチをオフにして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

落雷により不具合が発生した場合は、すみやかにサービス窓口にご連絡ください。

電源コードや機器の配線ケーブルは、取り扱いに気をつけてください。火災や故障の原因となります。

- 上にものを乗せない。
- 傷をつけない。
- 無理に曲げない。
- 引っ張らない。

火気を近づけないでください。機器表面などが変形、劣化したり、故障の原因となります。

機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと機器内部の温度が上昇し、やけどや故障の原因となります。

機器の中に異物を入れないでください。火災や故障の原因となります。

注意

機器を壁面に取り付けるときは、機器の質量に十分耐えられる強度を持った場所に取り付けてください。強度が足りない場合、落下し、けがをすることがあります。

取り付けねじやナットで締め付ける箇所がある機器は、締め付けが不十分だと落下する原因となります。確実に締め付けてください。

機器を壁面、天井などに取り付けるときは、機器をしっかり手で押さえ、落とさないようにご注意ください。けがや機器の故障の原因となります。

機器間の接続線に足などを引っかけないようご注意ください。つまずいてけがの原因となることがあります。

包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。頭からかぶると窒息の原因となります。

設置・設定時のご注意

- 本システムの設置は、高所での作業を伴います。設置工事は必ず販売店または専門の工事店にご依頼ください。
- 設置作業は、けがや事故を防止するため、ヘルメット、安全靴や手袋など、設置に適した服装で行なってください。
- すべての工事・配線が完了したら、電源を入れる前にもう一度、すべての結線・配線・コネクターが確実に接続できているか、また、極性、配線間違いがないか確かめてください。予期せぬ事故を未然に防げます。

本システムの使用周波数帯に関わるご注意

本システムは、1,895.616 ～ 1,902.528 MHz の全帯域を使用する無線設備です。
本システムの無線機器には、1.9 GHz 帯を使用するデジタルコードレス電話の無線局の無線設備で、時分割多元接続方式広帯域デジタルコードレス電話を示す右記のマークが表示されています。

1.9 ― D

本システムは、ARIB（一般社団法人電波産業会）の標準規格「ARIB STD-T101」に準拠しています。
運用にあたっては電波法等､法律に基づいた運用が必要です。

■ 電波に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、PHS の無線局のほか異なる種類のデジタルコードレス電話の無線局が運用されています。

1. 本システムは、同一周波数帯を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、本システムから他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の送信を停止した上、お買い上げ販売店、またはお近くのサービス窓口にご連絡いただき､混信回避のための処置等（例えば､パーティションの設置など）についてご相談ください。
2. その他、何かお困りのことが起きたときは、お買い上げ販売店、またはお近くのサービス窓口にお問い合わせください。

病院、医療施設での使用に関するご注意

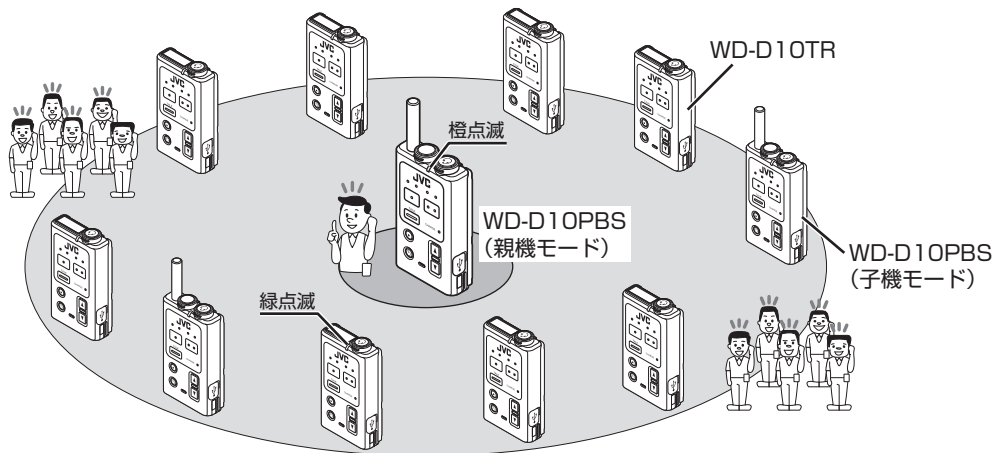
本システムは上記の PHS 端末と同等の仕様となっており、基地局（ベースステーション、親機）、端末（子機）ともに平均出力 10 mW 以下になっています。最近の医用電気機器は妨害電波排除能力が向上しているものの、医用機器の近くで使用されることが想定される場合は、事前に十分な検証を行なった上で導入するようにしてください。

システム設置・設定例

本システムは親機と子機を組み合わせて使用するデジタルワイヤレスインターカムシステムです。
システムは、親機のタイプによってポータブルタイプと据え置きタイプがあります。

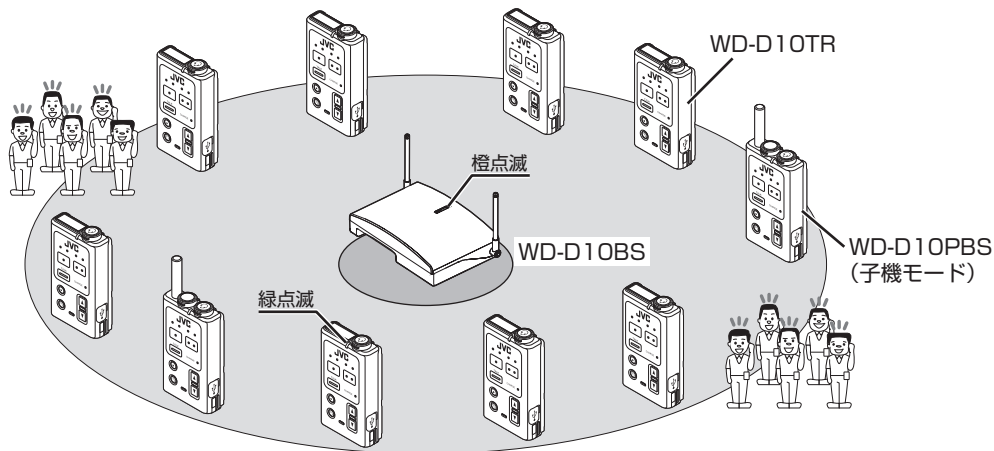
■ポータブルタイプ

● スタンドアローン型システム

ポータブルベースステーション WD-D10PBS を親機として使用します。
子機はポータブルベースステーション WD-D10PBS（子機モード）またはポータブルトランシーバー WD-D10TR を最大 10 台まで接続できます（最大で 11 者間の同時通話が可能です）。

メモ：
- ポータブルベースステーション WD-D10PBS を子機として使用するには、WD-D10PBS 本体のモード切り換えが必要です。詳しくは WD-D10PBS の取扱説明書をご覧ください。

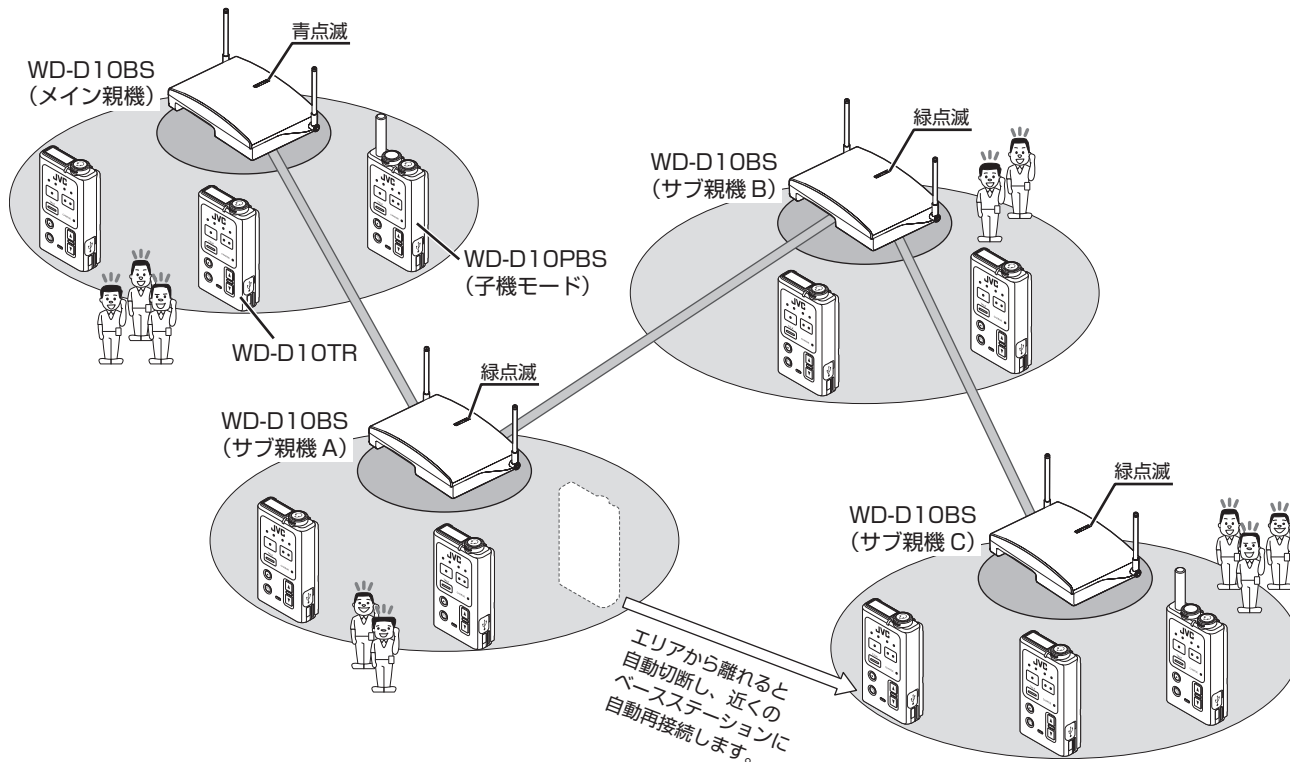
■据え置きタイプ

● スタンドアローン型システム

ベースステーション WD-D10BS を親機として使用します。
子機はポータブルベースステーション WD-D10PBS（子機モード）またはポータブルトランシーバー WD-D10TR を最大 10 台まで接続できます（最大で 10 者間の同時通話が可能です）。

メモ：
- ポータブルベースステーション WD-D10PBS を子機として使用するには、WD-D10PBS 本体のモード切り換えが必要です。詳しくは WD-D10PBS の取扱説明書をご覧ください。

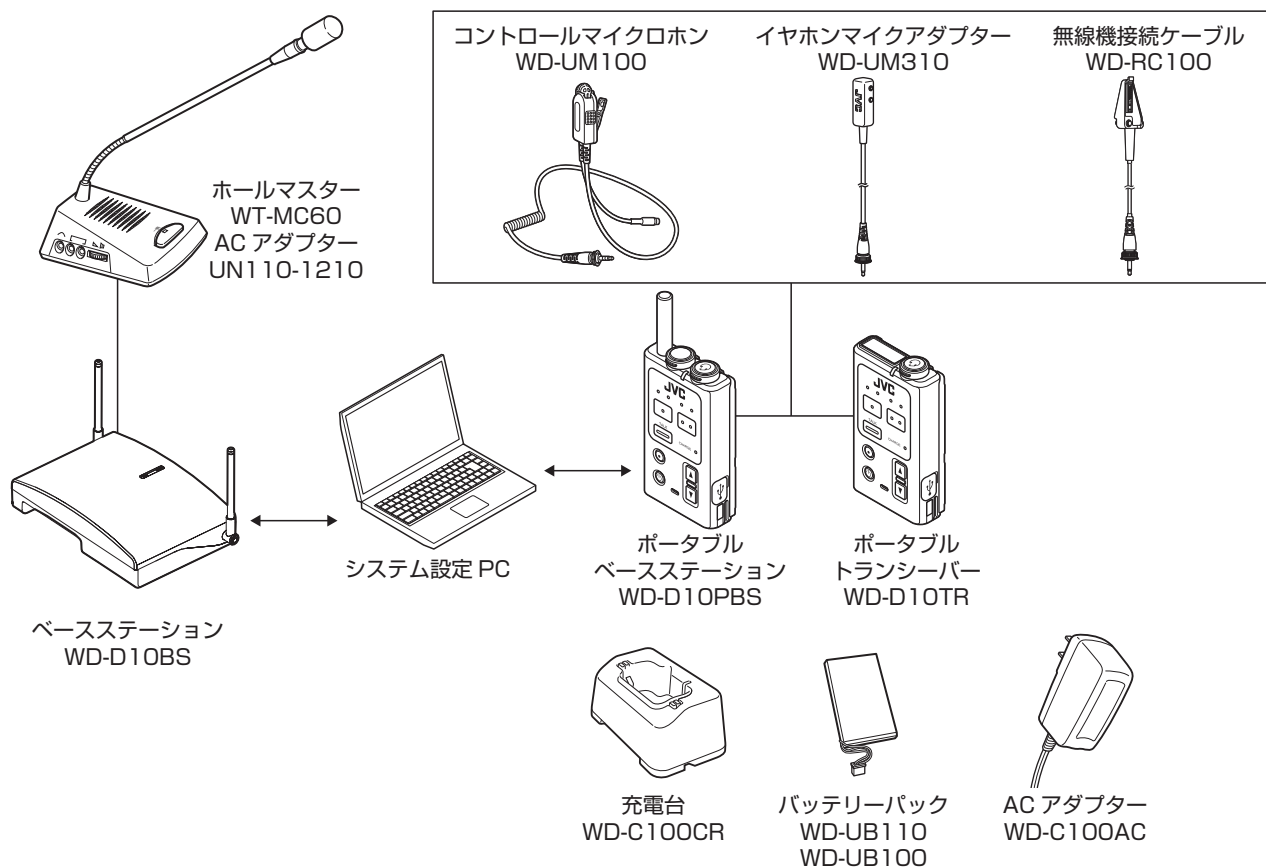
システム設置・設定例（つづき）

● ベースリンク型システム

据え置きタイプのシステムでは、複数（最大で 4 台）のベースステーション WD-D10BS を有線で接続することで、エリアを拡張できます。
WD-D10BS の 1 台をメイン親機、その他（最大で 3 台）をサブ親機として運用します。

メモ：

- エリアを移動したときのベースステーションの切り換えには時間がかかる場合があります。
- 移動先のベースステーションに空きチャンネルがあるときのみ接続できます。
- 同時接続台数は周辺の電波状況や設置状況、環境によって変わります。
- 外部入出力はメイン親機のみ接続できます。

システム構成

システム構成図

システム構成表

No.	機種名	商品名	備考
1	WD-D10PBS	ポータブルベースステーション	デジタルワイヤレスインターカムシステムの親機または子機として無線通信を行うトランシーバーです。
2	WD-D10TR	ポータブルトランシーバー	デジタルワイヤレスインターカムシステムの子機となるトランシーバーです。ポータブルベースステーションまたはベースステーションと無線通信を行います。
3	WD-D10BS	ベースステーション	ポータブルトランシーバーとの通信を行います。
4	WT-MC60	ホールマスター	ベースステーション WD-D10BS に接続してインカム通話に参加できます。
5	WD-C100CR	充電台	ポータブルベースステーション WD-D10PBS/ ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用の充電台です。
6	WD-C100AC	AC アダプター	充電台 WD-C100CR 用の AC アダプターです。
7	WD-UB110	バッテリーパック	ポータブルベースステーション WD-D10PBS 用のバッテリーパックです。
8	WD-UB100	バッテリーパック	ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用のバッテリーパックです。
9	WD-UM100	コントロールマイクロホン	ポータブルベースステーション WD-D10PBS/ ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用のコントロールマイクロホンです。（タイピン型）
10	WD-UM310	イヤホンマイクアダプター	ポータブルベースステーション WD-D10PBS/ ポータブルトランシーバー WD-D10TR 用の変換アダプターです。 KENWOOD ブランドのアクセサリー（コントロールマイクロホンなど）と接続して使用します。
11	WD-RC100	無線機接続ケーブル	ポータブルベースステーション WD-D10PBS 用の変換ケーブルです。 KENWOOD ブランドの機器を使用した、外部の無線システムに連絡する場合に使用します。

システム構成（つづき）

工事手配品一覧

工事手配品名	用途	参照ページ
配線用ケーブル	ケーブル配線	☞ 15 ページ
Φ6.3 フォンプラグ	音声入出力ユニットの接続（必要となった場合）	—
ねじまたは木ねじ× ベースステーション設置台数分（取り付ける場所に適した径寸・本数）	ベースステーション壁・天井取り付け	☞ 18 ページ
防水シール	ベースステーション防水処理	☞ 24 ページ

はじめに

お客様にデジタルインターカムシステムを快適にお使いいただくためには、外来波による影響、施設のフロア形状、反射波の影響、ノイズの影響などを考慮して最適な設置位置と設置数を計画することが重要です。
これらの工程を省略してベースステーションを設置すると、運用後に「繋がらない」「よく切れる」などのさまざまなトラブルを生む要因となります。
また、とても当たり前のことですが電波が届かないとインターカムで通話することはできません。電波の到達距離は環境に依存しますが、期待どおりの性能を維持できるのは 20 m ぐらいまでと言われています。

メモ：

- 本書（デジタルインターカムシステム取扱説明書（設置・施工設計編））では、ベースステーション WD-D10BS を「ベースステーション」または「親機」、ポータブルベースステーション（子機モード）およびポータブルトランシーバー WD-D10TR を「子機」と表記しています。
  また、ベースステーション WD-D10BS、ポータブルベースステーション、ポータブルトランシーバー WD-D10TR を総称して「端末」と表記しています。

準備

基本情報

■通信可能範囲

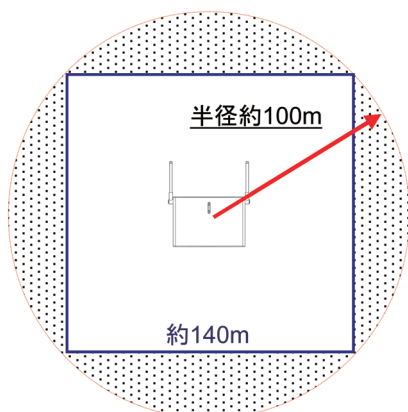



図１　屋外の通信可能範囲目安

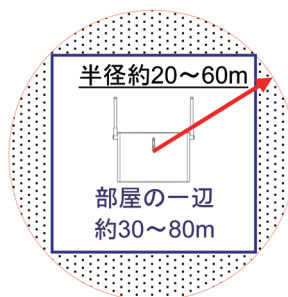



図２　屋内の通信可能範囲目安

屋内の通信範囲は、目安として半径約 20 m 〜 60 m（約 30 m 〜 80 m 四方）ですが、ベースステーションの設置場所・建物の材質・什器などにより異なります。

■アンテナの指向性

アンテナは 180°回転します。天井への取り付け時はアンテナを垂直にしてください。壁への取り付けの場合は、壁面に対してアンテナを 20 〜 30°倒してください。また､壁面への横方向設置は避けてください。通話範囲が狭くなる場合があります。

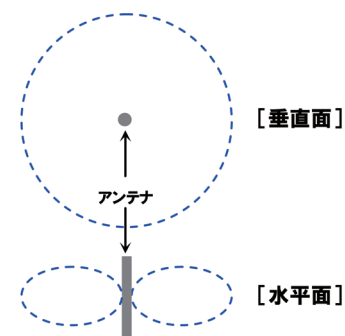
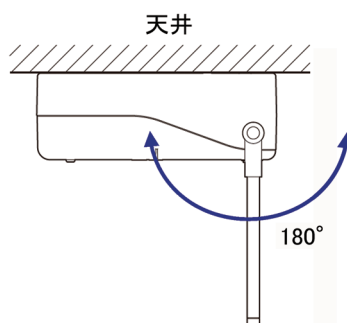
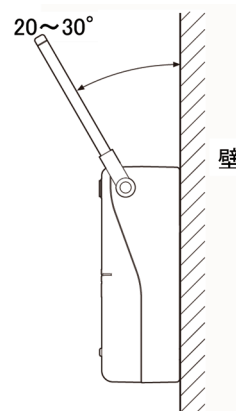



図３　アンテナの指向性　　図４　天井面設置　　図５　壁面設置

■接続ケーブル

ベースステーションとベースステーション間の接続ケーブルは 2 芯のツイストペアケーブルを使用します。下記のケーブル、または同等品を使用してください。

● 冨士電線株式会社　「電子ボタン電話デジタル伝送用ケーブル　ICT」

最大配線距離

線径 (mm)	配線距離（m）
φ 0.5	600
φ 0.65	1000

表１　配線可能距離

ご注意：

● 配線ケーブルは、動力機器などの電源ケーブルと一緒に束ねたり、平行してはわせないようにしてください。通話にノイズが入ったり、誤作動の原因となることがあります。

■ WD-D10BS 増設台数

WD-D10BS が増設できる台数は、メイン親機 1 台にサブ親機 3 台の合計 4 台です。

電波環境の影響

■ 外来波の調査

外来波とは「外からくる電波」のことです。ベースステーションを設置し電波を届かせる範囲（子機を使う範囲）にこの外来波がきていないかどうかを確認します。外来波が来ていると、デジタルインターカムシステムが「快適に使えない」「繋がらない」「よく切れる」などといったさまざまなトラブルを生む要因になります。
デジタルインターカムシステムが使う電波は 1.9 GHz 帯の帯域です。主にこの帯域を使用するシステムは PHS システム、DECT システムのため、外来波の調査には PHS や DECT アナライザを使用すると便利です。
（どのメーカーのものでも構いませんが、例えば PHS なら「リーダー電子　LF970」などが小型で便利です）

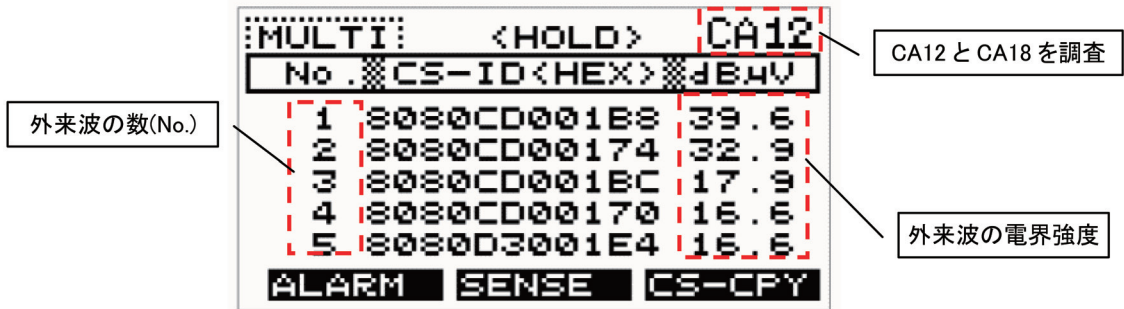



図 6　参考例　LF970 の表示画面

子機を使いたいエリア全域の複数のポイントで、アナライザによる外来波の電界強度を測定してください。測定の結果「外来波を受信しない」、もしくは受信レベルが「20 dBμV 以下」であればデジタルインターカムシステムにほとんど影響を与えません。約30 dBμV を超えると、デジタルインターカムシステムはすでに使用中のチャンネルであると検出してそのチャンネルを使用できなくなります。

測定結果が上記条件を超えていても、例えば「最大レベルが 40 dB μ V 以下でかつ数が 3 つ以下」「最大レベルが 50 dB μ V 以下でかつ数が 1 つ以下」などの特定の条件下では、子機の台数によっては、問題なく使用できる場合もあります。詳しくは弊社サービス窓口にお問い合わせください。

※ 近年、デジタルインターカムシステムが使用する 1.9 GHz 帯の技術基準が改正され、色々な方式の技術的条件が追加されました。その場合はアナライザでは測定が行えませんので、念のためにスペクトラムアナライザで「1893.5 MHz ～ 1906.1 MHz」の帯域を“電波の種類に関わらず”「20dBμV 以下」であるか確認してください。なお、バースト状の電波も測定できるようにスペクトラムアナライザの掃引時間は長くしてください。

■ 建築材による電波の減衰

ベースステーションのレイアウト設計で特に大変なのは障害物の問題です。コンクリート壁やスチール棚などに遮られると通話品質が下がってしまいます。対策としてはベースステーションの設置位置を調整するか、レイアウトを工夫するしかありません。電波は直進するわけではなく、迂回、透過、反射をします。そのためレイアウト設計にはある程度のノウハウが必要です。

材料	減衰量の目安（dB）
鉄板（アルミ・ステンレス）	電波を通さない
網入りガラス -	減衰は大きい
断熱用グラスウール（アルミ箔付）	37.0
ALC（100mm）	9.6
瓦	6.2
スレート（11mm）	4.1
木板（15mm）.	3.2
石膏ボード（7mm）	2.2
レンガ（60mm）	1.2
ガラス	減衰は小さい

表 2　1.9 GHz 帯電波の減衰量

設置例

WD-D10BS の設置は、施設の構造によって配置の調整が必要です。
参考に配置例を示しますが、必ずしもこのパターンに収まるわけではありません。お客様の要望を十分にヒアリングして、その案件ごとの適切な配置をするようにしてください。

小規模施設（同一空間 1 エリア + 事務所 他）

特徴

- 市街地パチンコ店：パチンコ台／スロット台計 200 ～ 300 台程度。（1 フロアのみ）
- 子機使用台数 10 台以下。
- ホールから壁に遮られた場所に事務所、休憩室などあり。
- 天井高 3.5 m 程度。（遮蔽物なし）

設置ポイント

- 設置台数 1 台。
- ホール内は 1 エリアでカバーできる店舗。
- ホール以外の壁に遮られた事務所や休憩室に補助的にベースステーションを配置する。
- 各ベースステーションが受け持つエリア間で子機が移動してもハンドオーバーされません。
  子機は圏外の検出で自動切断を行い、最も近いベースステーションに自動接続を試みますので、多少のタイムラグが発生します。
  各ベースステーション間をスムーズに切り換えるために、通信を切断するレベルの調整ができます（3 dB 程度ずつあげて圏内チェックしながら設定値を決定してください）。

●：ベースステーション配置場所の目安

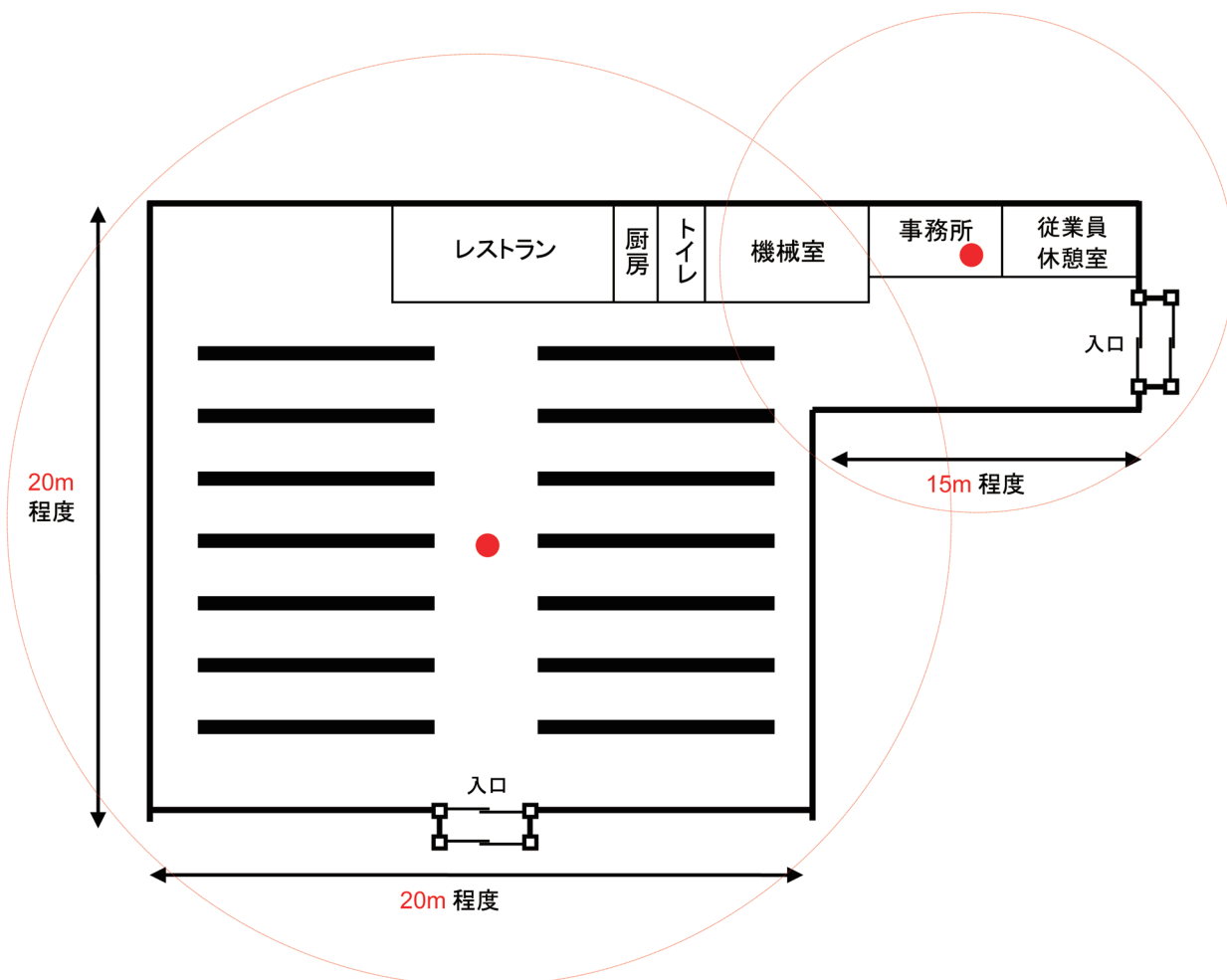



図　小規模施設の例

中規模施設（同一空間 2 エリア＋α）

特徴

- 郊外パチンコ店：パチンコ台／スロット台計 800 台程度。（1 フロアのみ）
- 子機使用台数 35 台。
- ホールから壁に遮られた場所に事務所、休憩室、喫茶コーナー、機械室などあり。
- 天井高 3.5 m 程度。（遮蔽物なし）

システム規模が大きいので WD-D10 シリーズはご利用になれません。
当社 WD-3000 シリーズを検討ください。

大規模施設 1（同一空間複数フロア）

特徴

- ゴルフ場クラブハウス：2 階建、吹き抜けあり。（2 フロア）
- 子機使用台数 10 台以内程度。
- 天井高 3 m 程度。

システム規模が大きいので WD-D10 シリーズはご利用になれません。
当社 WD-3000 シリーズを検討ください。

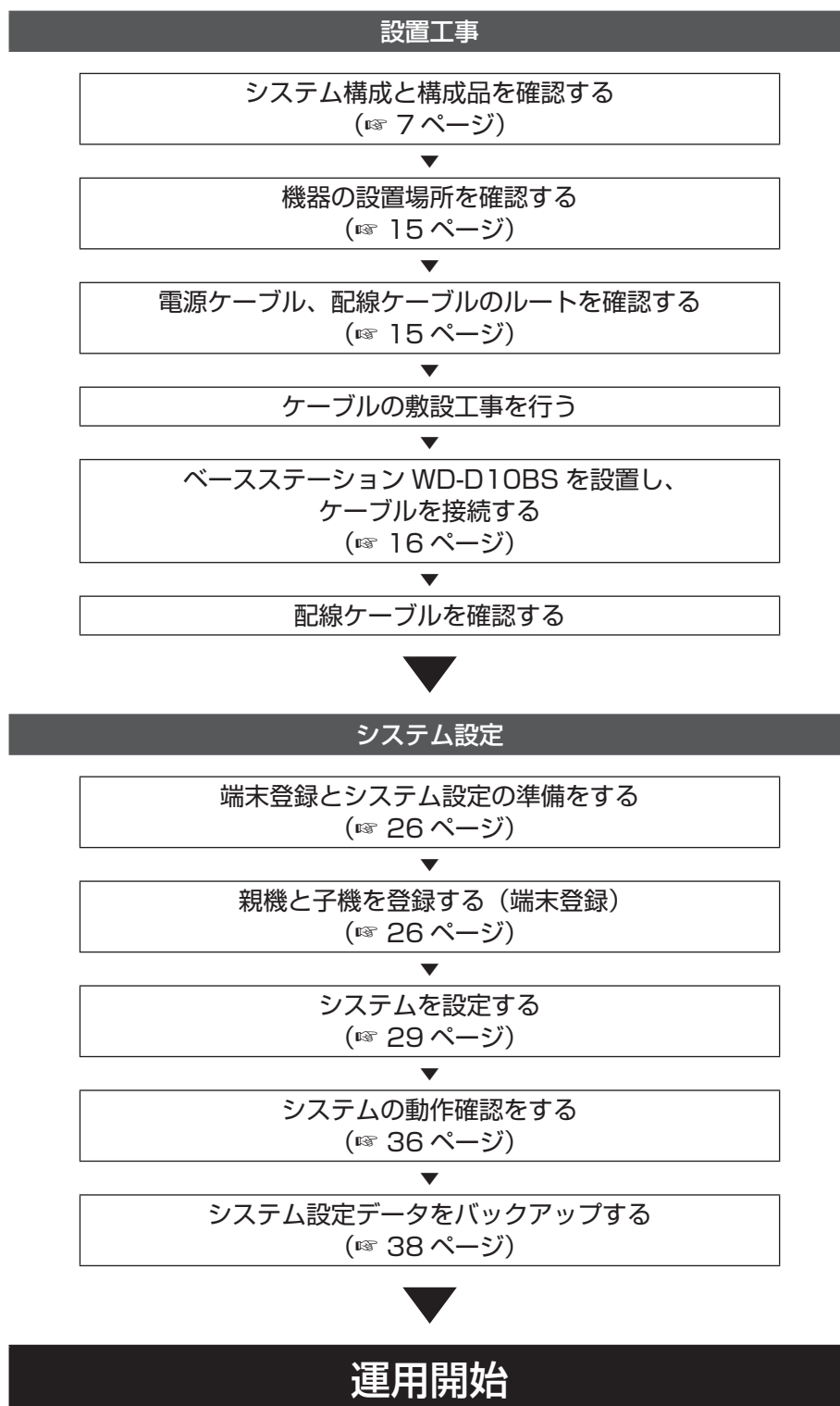
大規模施設 2（1 フロア広域）

特徴

- 工場や倉庫：巨大平屋建て。
- 子機使用台数 10 台程度。
- 天井高 10 m 程度。

システム規模が大きいので WD-D10 シリーズはご利用になれません。
当社 WD-3000 シリーズを検討ください。

推奨手順

デジタルインターカムシステム WD-D10 シリーズの標準的な設置、設定手順は以下のとおりです。

メモ：

● ベースステーション WD-D10BS を使用しないシステムの場合は、設置工事は不要です。

機器の設置場所の確認

機器の設置場所について条件を満たしているかの確認を行います。

■設置上のご注意

- ● 設置工事は、必ず電源を切った状態で行なってください。
- ● 付属品、または専用品以外を接続しないでください。故障、誤動作の原因となります。
- ● 水のかかる場所（屋外、浴室など）や湿気の多い場所に設置しないでください。感電や故障の原因となります。
- ● ほこりや振動の多いところに設置しないでください。故障や破損の原因となります。
- ● 直射日光、暖房設備、ボイラーなど特に温度の上がる場所に設置しないでください。機器表面などが変形、劣化したり、故障の原因となります。
- ● 硫化水素の発生する場所に設置しないでください。故障や機器の寿命が短くなる原因となります。

■設置条件

各機器の設置条件、使用環境条件は、次のとおりです。

<table>
<tr><th>機種名</th><th>使用温度範囲</th><th>各機器共通条件</th></tr>
<tr><td>ポータブルベースステーション WD-D10PBS</td><td>− 10 ℃〜 60 ℃</td><td rowspan="8">・ 湿度：20%〜 80% RH（つゆつきなし）
・ 急激な温度、湿度の変化がないこと
・ 換気のよい場所
・ 高周波ミシン、電気溶接機から離れた場所
・ コンピューター、OA 機器から離れた場所
・ ラジオ、テレビ、無線機器から離れた場所
・ 医療用機器から離れた場所
・ 動力線から離れた場所
・ ノイズ源となるような機器から離れた場所
・ 直射日光の当たらない場所
・ 通行の妨げにならない場所
・ 雨水のかからない場所
・ 金属粉、塵埃の少ない場所
・ 振動、騒音の少ない場所
・ 油、化学薬品などの化学変化の影響を受けにくい場所</td></tr>
<tr><td>ポータブルトランシーバー WD-D10TR</td><td>− 10 ℃〜 60 ℃</td></tr>
<tr><td>ベースステーション WD-D10BS</td><td>− 10 ℃〜 50 ℃</td></tr>
<tr><td>充電台 WD-C100CR</td><td>0 ℃〜 40 ℃</td></tr>
<tr><td>AC アダプター WD-C100AC</td><td>0 ℃〜 40 ℃</td></tr>
<tr><td>コントロールマイクロホン WD-UM100</td><td>−10 ℃〜 60 ℃</td></tr>
<tr><td>イヤホンマイクアダプター WD-UM310</td><td>−10 ℃〜 60 ℃</td></tr>
<tr><td>無線機接続ケーブル WD-RC100</td><td>−10 ℃〜 60 ℃</td></tr>
</table>

電源ケーブル、配線ケーブルのルート確認

機器の設置にあたって必要となる電源ケーブルおよび配線ケーブルのルートの確認を行います。

■配線ケーブル条件

ベースステーションとベースステーション間の接続ケーブルは 2 芯のツイストペアケーブルを使用します。下記のケーブル、または同等品を使用してください。

- ● 冨士電線株式会社 「電子ボタン電話デジタル伝送用ケーブル　ICT」

最大配線距離

線径 (mm)	配線距離（m）
φ 0.5	600
φ 0.65	1000

表 1　配線可能距離

ご注意：

- ● 配線ケーブルは、動力機器などの電源ケーブルと一緒に束ねたり、平行してはわせないようにしてください。通話にノイズが入ったり、誤作動の原因となることがあります。

ベースステーション WD-D10BS を設置する

ベースステーション WD-D10BS は、無線接続により最大 10 台のポータブルベースステーション WD-D10PBS（子機モード）/ ポータブルトランシーバー WD-D10TR との通信を行うユニットです。

設置上のご注意

■ ベースステーション WD-D10BS の設置場所

● 以下のような場所への設置はできる限りさけてください。通話にノイズが入ったり、誤動作の原因となることがあります。

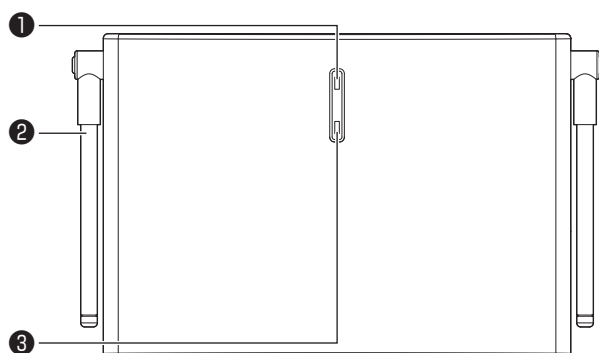
- 金属板の上、または金属板の近く
- アンテナが金属に触れるような場所
- 空調機などの動力機器の近く
- ものの影になるような場所
- 低い場所

● ベースステーション WD-D10BS の防水性は、IP54（JIS 防水保護等級 4 級）準拠です。軒下など、直接雨水がかからない場所に設置できます。
IP54 は防塵・防沫形（全方向からの水の飛まつによっても有害な影響がでない）を意味しています。

● 軒下に設置する場合は、壁面に取り付けるように設置してください。

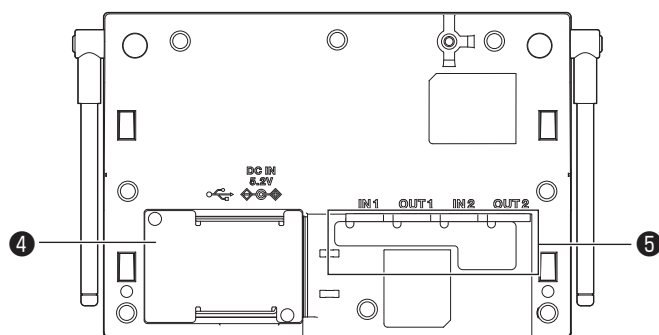
● 直接雨水がかかる場所に設置する場合は、下記のプラボックスまたは同等品に収納して設置してください。
株式会社タカチ電機工業
プラボックス BCAP304012G
木製取付ベース BMP3040W

各部の名称とはたらき

■ 前面

❶ 動作 LED
ベースステーションの状態を LED の色で表示します。

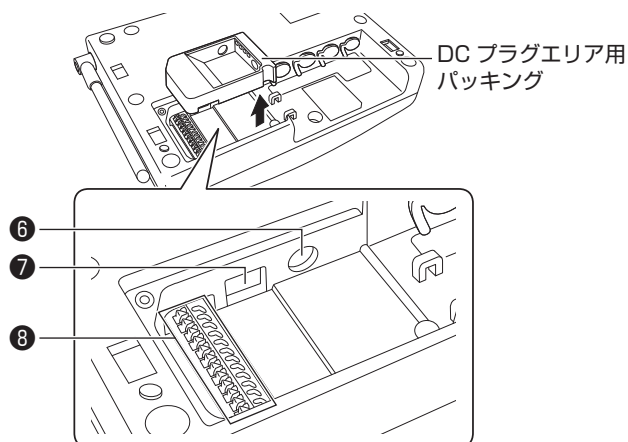
❷ アンテナ

❸ ［登録］ボタン
無線通信による子機登録を行うときに使用します。

■ 背面

❹ DC プラグエリアカバー
DC IN 端子に AC アダプターを接続するときや、データ設定端子、ベースリンク用端子台などを使用する場合にカバーをはずします。

❺ 設定・調整エリアパッキング
外部音響機器を接続するときや音量を調整するとき、動作モード設定スイッチを使用するときなどにはずします。

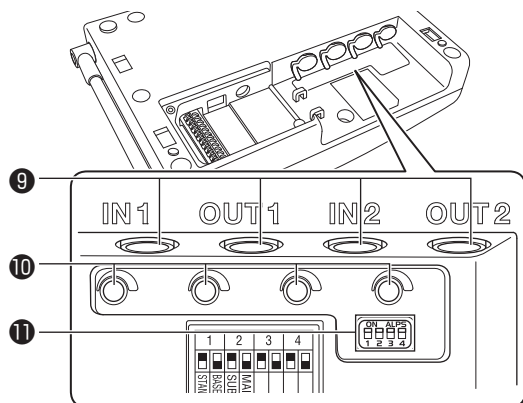
DC プラグエリアカバー内部

DC プラグエリアカバー内部には DC プラグエリア用パッキングがあります。パッキングをはずすと DC IN 端子やデータ設定端子、ベースリンク用端子台が使用できます。

❻ DC IN 端子
AC アダプターの DC プラグを接続します。

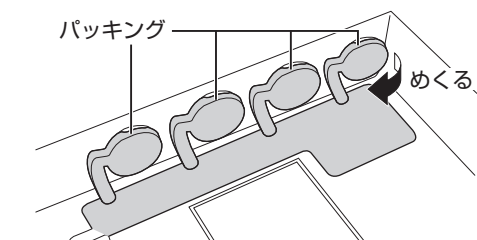
❼ データ設定端子
設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してベースステーションをシステムへ登録したり、設定の変更を行うときに使用します。

❽ ベースリンク／外部機器制御端子
ベースステーションをベースリンク型システムとして運用するときに使用します。

設定・調整エリアパッキング内部

設定・調整エリアパッキング内部には外部音声入出力端子、音量調整つまみ、動作モード設定スイッチがあります。

❾ 外部音声入出力端子（2 系統）

外部音響機器を接続することで、グループ通話などを外部に出力することができます。また、ホールマスター WT-MC60 などのマイクや外部機器を接続することで、グループ通話に参加することができます。

外部機器を接続するときは端子のパッキングをめくります。

防水性能を保つため、接続しないときは端子にパッキングをかぶせてください。

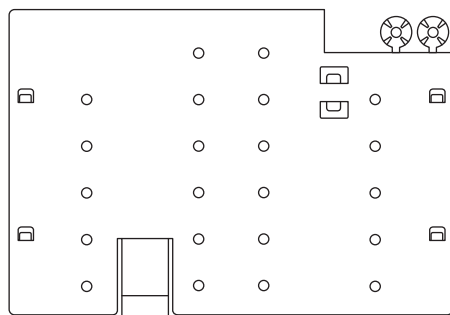
❿ 外部音声入出力音量調整つまみ

接続した外部音響機器やマイクなどの音量を調整します。

⓫ 動作モード設定スイッチ

ベースステーションの端末タイプや動作モードを設定するときに使用します。

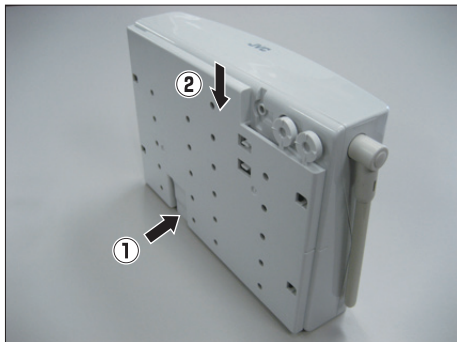
取付プレート

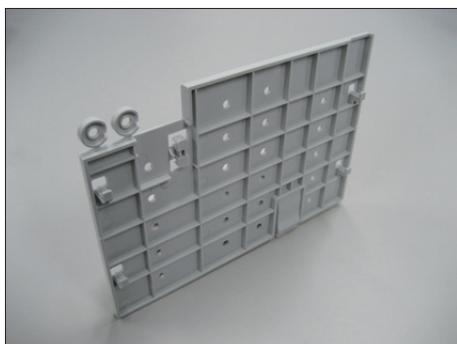
ベースステーションを壁や天井に設置するときに使用します。

動作 LED の表示

表示	動作モード		
	スタンドアローン型システム親機	ベースリンク型システムメイン親機	ベースリンク型システムサブ親機
緑点滅（遅）	—	—	通常運用中
緑点灯	無線子機登録モード	無線子機登録モード	—
赤点滅（遅）	電源起動時		電源起動時、回線未接続（エリア圏外、通話不可）
青点滅（遅）	—	通常運用中	—
青点滅（速）	システムエラー		
青点灯	PC による無線設定中		
橙点滅（遅）	通常運用中	—	—
緑・橙交互点滅	アップデート中		

※ 点滅（遅）: 3 秒に 1 回点灯
　点滅（速）: 1 秒に 1 回点灯

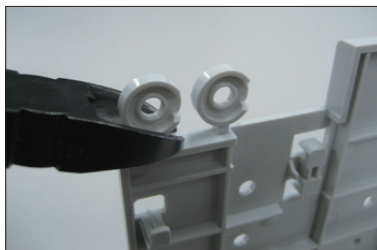
ベースステーション WD-D10BS を設置する（つづき）

壁、天井への取り付け

1 ベースステーション WD-D10BS から取付プレートを取りはずす

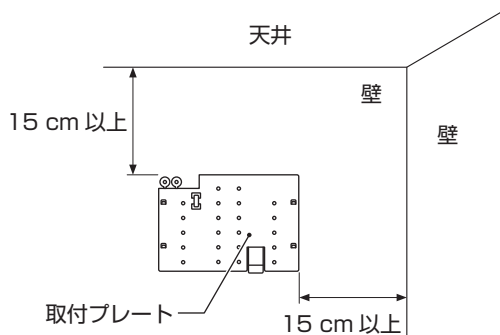
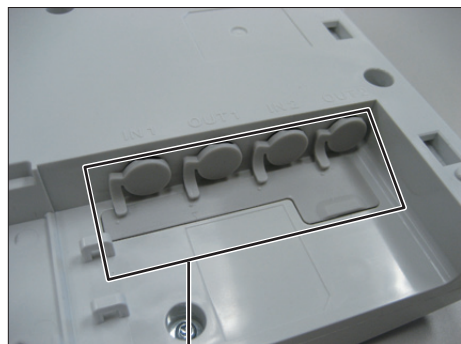
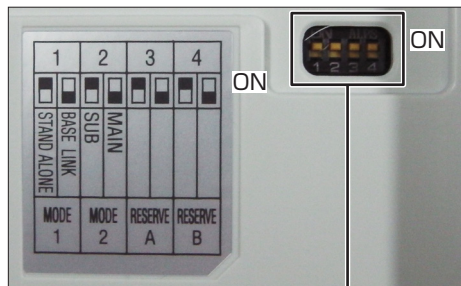
ロックレバーを本体底面方向に押さえ、ベースステーション WD-D10BS を持ち上げながら取付プレートを下方向にスライドして取りはずします。

2 取付プレートをねじ（工事手配品）で壁または天井に取り付ける

ねじを締める位置やねじの本数、寸法は取り付ける場所に合わせて検討してください。

メモ：

- 本機を固定するときに落下防止ひもを使用する場合は、ニッパーで取付プレートからスペーサーを切り取ります。
  (☞ 23 ページ)

- 取り付けプレートの落下防止用つめを使用する場合（☞ 23 ページ）は、取り付けプレートを取り付け面（壁面や天井面）に固定する前に落下防止ひもをつめに引っかけてください。
  取り付けプレートが取り付け面に密着した状態では落下防止ひもを引っかけることができません。

ご注意：

- 取付プレートは、下図のように天井および壁から 15 cm 以上の間隔を空けて取り付けてください。天井および壁からの間隔が近すぎると、ベースステーション WD-D10BS を取付プレートに取り付けられなくなります。

取り付ける面に適した部材を使用し、落下事故が発生しないように確実に固定してください。

設定エリア用パッキング

3 設定エリア用パッキングを取りはずす

動作モード設定スイッチ

4 動作モード設定スイッチを設定する

本機の動作モードを切り換えます。

動作モード設定スイッチの設定

スイッチ		スタンドアローン型システム：親機	ベースリンク型システム：メイン	ベースリンク型システム：サブ
MODE 1	STAND ALONE	ON	OFF	OFF
	BASE LINK	OFF	ON	ON
MODE 2	MAIN	OFF	ON	OFF
	SUB	OFF	OFF	ON

メモ：

● 本機をベースリンク型システムで運用する場合は、ここでケーブルの接続を行います。詳しくは「ベースリンク型システムの設定を行う場合」(☞ 24 ページ）をご覧ください。

外部音声入出力音量調整つまみ

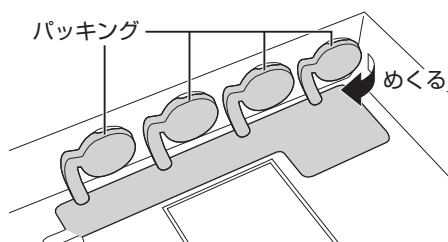
5 外部機器を接続する場合は、外部音声入出力音量調整つまみで音量を調整する

6 設定エリア用パッキングを取り付ける

外部音声入出力端子

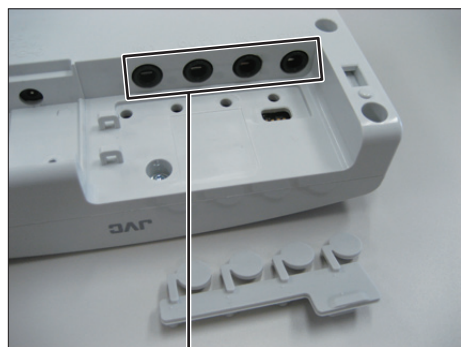
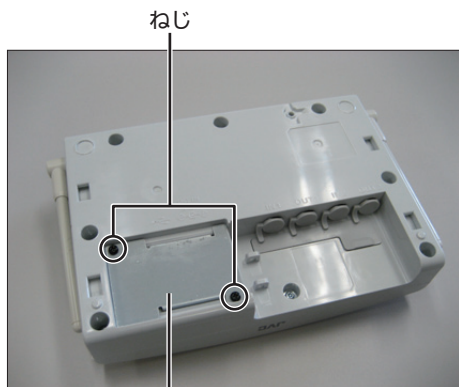
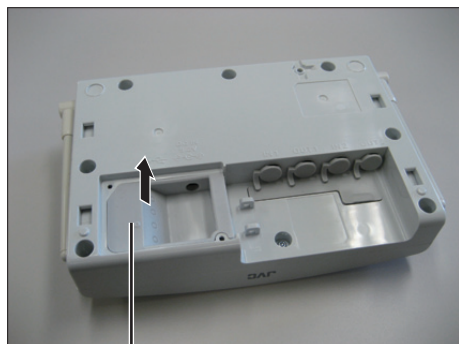
7 外部機器を接続する場合は、外部音声入出力端子に外部機器を接続する

メモ：

● 外部機器を接続するときは端子のパッキングをめくります。

● 防水性能を保つため、外部機器を接続しないときは端子にパッキングをかぶせてください。

ベースステーション WD-D10BS を設置する（つづき）

壁、天井への取り付け（つづき）

ねじ

DC プラグエリアカバー

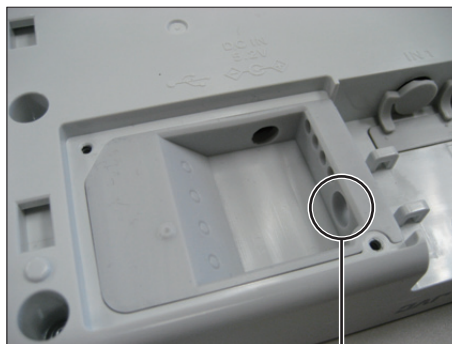
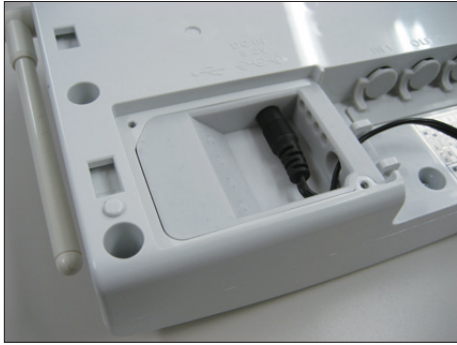
DC プラグエリア用パッキング

8 **DC プラグエリアカバーおよび DC プラグエリア用パッキングを取りはずす**

ねじ 2 本をはずして DC プラグエリアカバーを取りはずし、DC プラグエリア用パッキングを取りはずします。

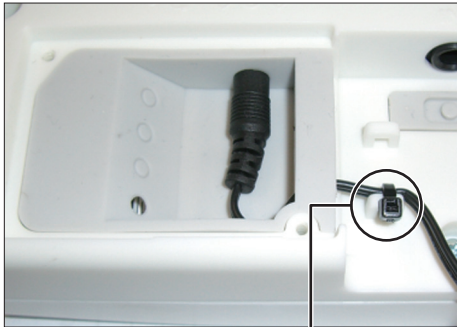
▼

9 **DC プラグエリア用パッキングに AC アダプターの DC プラグを通し、元のくぼみに戻す**

DC プラグはパッキングの大きな穴に通します。

プラグ（AC アダプター）用の穴

10 DC プラグを DC IN 端子に差し込み、ケーブルを固定する

DC プラグを DC IN 端子の奥まで差し込み、ケーブルタイで AC アダプターのケーブルを固定します。

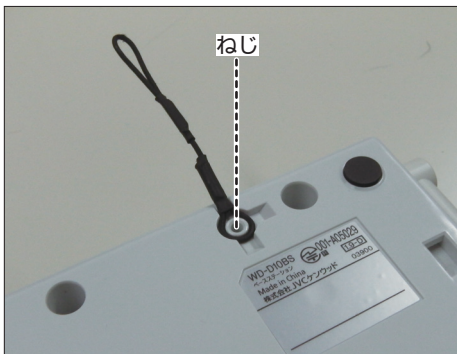
メモ：

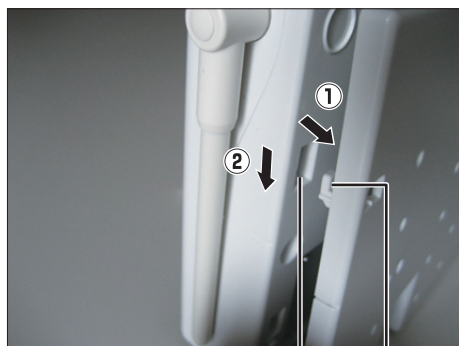
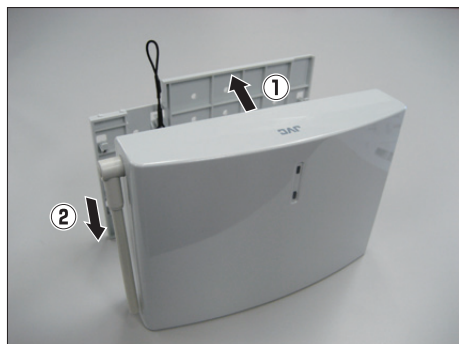
- AC アダプターと電源が遠い場合は、AC 電源を延長してください。AC アダプターのケーブルは 1900 mm です。

AC アダプターケーブル固定位置

11 DC プラグエリアカバーを取り付ける

手順 8 で取りはずした DC プラグエリアカバーを元通りに取り付け、ねじ 2 本で固定します。

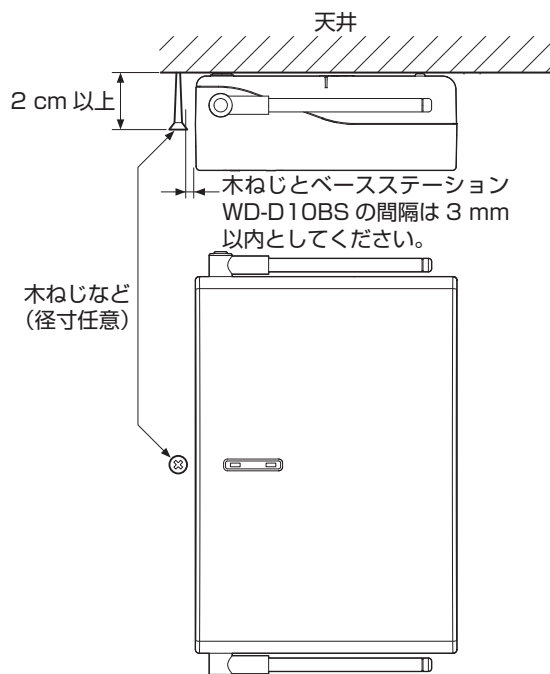
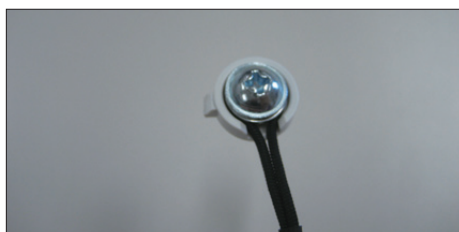
12 付属の落下防止ひもを本体に固定する

付属のねじで落下防止ひもを固定します。ひもは 3 方向に出すことができます。推奨方向は上方向です。

ベースステーション WD-D10BS を設置する（つづき）

壁、天井への取り付け（つづき）

13 壁に固定した取付プレートに本体を取り付ける

取付プレートのつめを本体背面のくぼみに合わせ、本体を下方向に押し込みます。

ご注意：

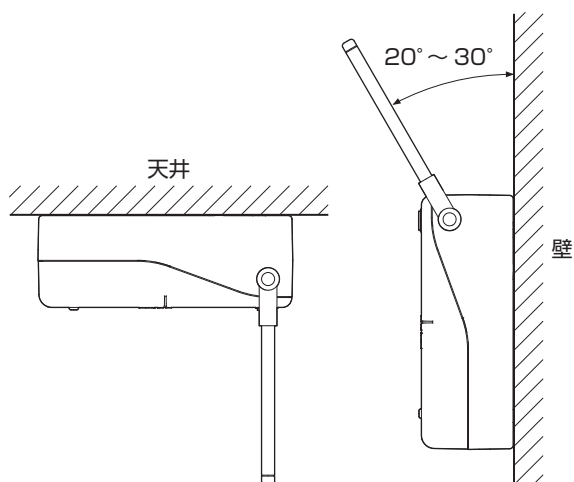
- 取付プレートの落下防止用つめを使用する場合は、本体を取付プレートに取り付ける前に落下防止ひもを落下防止用つめに引っかけてください。（☞ 18 ページ）
- 天井への設置は、ベースステーション WD-D10BS の本体を取付プレートに取り付け後、下図のように木ねじ（工事手配品）などを使用し、ベースステーション WD-D10BS と取付プレートがスライドしないよう落下防止対策を行なってください。

14 落下防止ひもを固定する

・ スペーサーを使用する場合
取付プレートから取りはずしたスペーサーおよび付属のワッシャーを使用して、ひもを壁にねじで固定します。

ご注意：

● 落下防止ひもをねじで固定する場合は、必ず付属のスペーサーおよび付属のワッシャーを使用してください。スペーサーおよび付属のワッシャーを使用せずにねじのみでひもを固定すると、ひもが切れたり、ねじから抜けたりする恐れがあります。

・ 取付プレートの落下防止用つめを使用する場合
落下防止ひもを固定する場所にねじを取り付ける剛性がない環境では、ひもを取付プレートの落下防止用つめに引っかけます。本体を取付プレートに取り付ける前に落下防止ひもを落下防止用つめに引っかけてください。
なお、取付プレートを取り付け面（壁面や天井面）に固定する前に落下防止用つめに引っかけてください。(☞ 18 ページ)

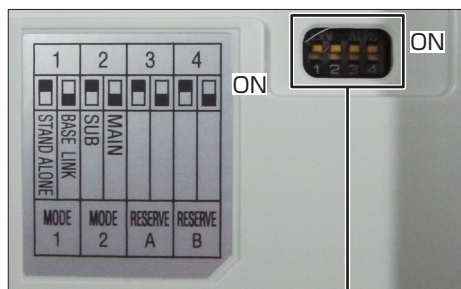
15 アンテナを適切な角度に調整する

ベースステーション WD-D10BS を設置する（つづき）

壁、天井への取り付け（つづき）

■ベースリンク型システムの設定を行う場合

本機をベースリンク型システムで運用する場合は、動作モード設定スイッチで設定を変更し、ベースリンク用端子台にケーブルを接続します。

1 動作モード設定スイッチの設定を確認する（☞ 19 ページ）

ベースリンク型システムのメイン、サブの設定が正しく行われていることを確認します。

動作モード設定スイッチ

● 動作モード設定スイッチ

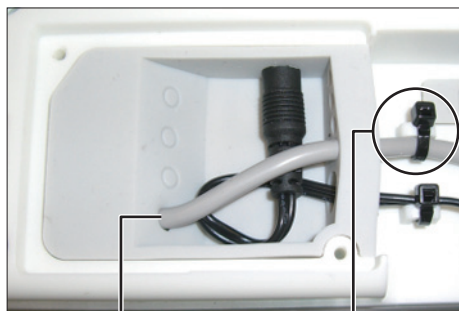
スイッチ		スタンドアローン型 システム：親機	ベースリンク型 システム：メイン	ベースリンク型 システム：サブ
モード 1	STAND ALONE	ON	OFF	OFF
	BASE LINK	OFF	ON	ON
モード 2	MAIN	OFF	ON	OFF
	SUB	OFF	OFF	ON

2 ケーブルを DC プラグエリア用パッキングの小さな穴を通して端子台に接続する

パッキング表の穴のくぼみに 1 か所切れ込みを入れ、パッキング裏の突起部分をつまんでひっぱって穴を開けます。

パッキングの穴にケーブルを通し、端子台にケーブルを接続します。

ベースリンク配線ケーブル用の穴

DC プラグエリア用パッキングをかぶせ、ケーブルをケーブルタイで固定します。

ケーブルとパッキング穴の間に隙間ができる場合は、防水性能を確保するためにコーキング処理を行なってください。

ケーブルを固定したら、設定エリア用パッキングを元の位置に戻します。
以降の作業は、21 ページの手順 11 をご覧ください。

端末登録とシステム設定の準備をする

デジタルインターカムシステム WD-D10 シリーズのシステムを稼動するには、親機と子機それぞれが通信を行う相手（親機にはすべての子機、子機には親機）の情報の登録と利用環境に合わせたシステム設定が必要です。

親機と子機の登録（端末登録）とシステム設定は親機と子機および設定ソフトウェア WD-ZS10 をインストールした PC を使用して行います。

■ 準備するもの

- 親機（ポータブルベースステーション WD-D10PBS またはベースステーション WD-D10BS）
- 子機（ポータブルベースステーション WD-D10PBS（子機モード）またはポータブルトランシーバー WD-D10TR）
- PC（パソコン）
- 設定ソフトウェア WD-ZS10
- USB ケーブル（A タイプ - Micro B タイプ）

メモ

● 設定ソフトウェア WD-ZS10 は以下の WEB サイトよりダウンロードしてください。
インストール方法についてはWEBサイトを参照ください。
http://www3.jvckenwood.com/pro/soft_dl/wd-d10/index.html

親機と子機を登録する（端末登録）

デジタルインターカムシステム WD-D10 シリーズは、親機と子機の両方にお互いの情報を登録することで通信できます。
情報の登録はそれぞれの機器（端末）を使用して登録する方法と、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して登録する方法があります。
それぞれの登録方法の違いは以下のとおりです。

● 端末のみを使用して端末登録する（☞ 26 ページ）

子機登録モードに設定した親機と子機を近づけると、それぞれの端末に親機、子機の情報が自動的に登録されます。

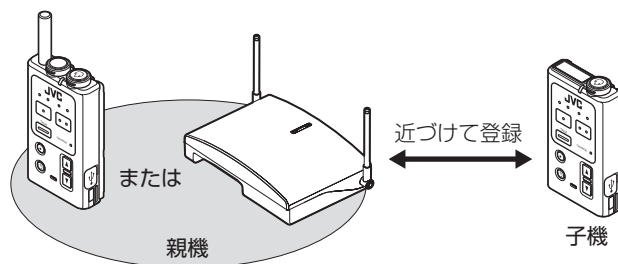
● 設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して登録する（☞ 28 ページ）

親機または子機を 1 台ずつ PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して親機または子機の情報を登録します。はじめに子機の情報を親機に登録し、次に親機の情報を子機に登録します。

メモ

● 子機として登録できるのは、ポータブルベースステーション WD-D10PBS（子機モードのみ）またはポータブルトランシーバー WD-D10TR です。
● 子機登録の方法については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

端末のみを使用して端末登録する

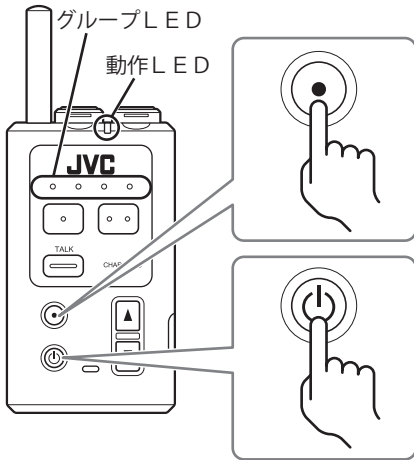
親機と子機の両方を子機登録モードに設定し、近づけることで自動的に親機、子機の情報が登録できます。

■ WD-D10PBS（親機モード）の場合

ポータブルベースステーション WD-D10PBS（親機モード）に子機を登録します。

メモ

● WD-D10PBS の親機モードへの切り換え方法については、WD-D10PBS の取扱説明書をご覧ください。

1 親機および子機の電源が入っている場合は、[電源] ボタンを 2 秒以上長押しして電源を切る

2 **親機の［一斉］ボタンを押しながら、［電源］ボタンを押す**

登録モードで起動します。動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて点滅します。

3 **子機の［一斉］ボタンを押しながら、［電源］ボタンを押す**

登録モードで起動します。動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて点滅します。
親機と子機が登録モードになると、自動的に登録が行われます。

- 登録に成功した場合：
  子機の動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて点灯します。
- 登録に失敗した場合：
  子機の動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて消灯します。再度登録モードで起動して登録しなおしてください。

・ 初期設定では、子機はすべて同じグループ（グループ A）に登録されます。

4 **子機を再起動する**

子機登録に成功したら、子機を再起動します。
登録が完了したら、親機も再起動してください。

メモ

- 登録モードを解除する場合は、［機能 2］ボタンを長押しします。
- 何度も登録に失敗する場合は、最大登録数を超えている場合があります。

■ WD-D10BS の場合

ベースステーション WD-D10BS に子機を登録します。

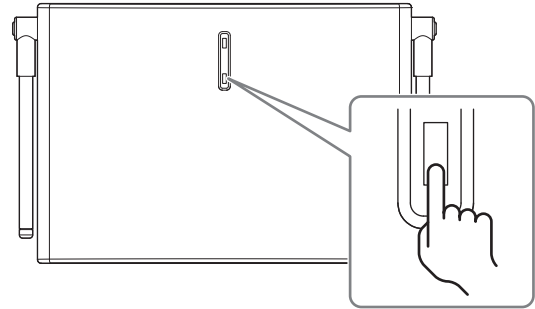
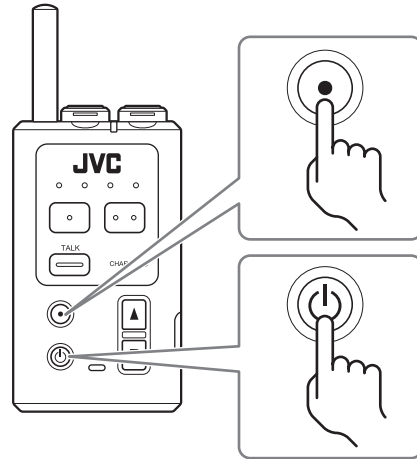
メモ

- ベースリンク型システムのサブ親機に子機を登録することはできません。メイン親機に対して登録を行なってください。

1 **WD-D10BS の電源を入れる**

WD-D10BS の AC アダプターを電源に差し込むと電源が入ります。

2 **WD-D10BS の［登録］ボタンを 2 秒以上長押しする**

登録モードで起動します。
動作 LED が緑色に点灯します。

3 **子機の［一斉］ボタンを押しながら、［電源］ボタンを押す**

登録モードで起動します。動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて点滅します。

親機と子機が登録モードになると、自動的に登録が行われます。

- 登録に成功した場合：
  子機の動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて点灯します。
- 登録に失敗した場合：
  子機の動作 LED が緑色に点灯し、グループ LED がすべて消灯します。再度登録モードで起動して登録しなおしてください。

・ 初期設定では、子機はすべて同じグループ（グループ A）に登録されます。

4 **子機を再起動する**

子機登録に成功したら、子機を再起動します。
登録が完了したら、WD-D10BS の登録モードを解除してください。

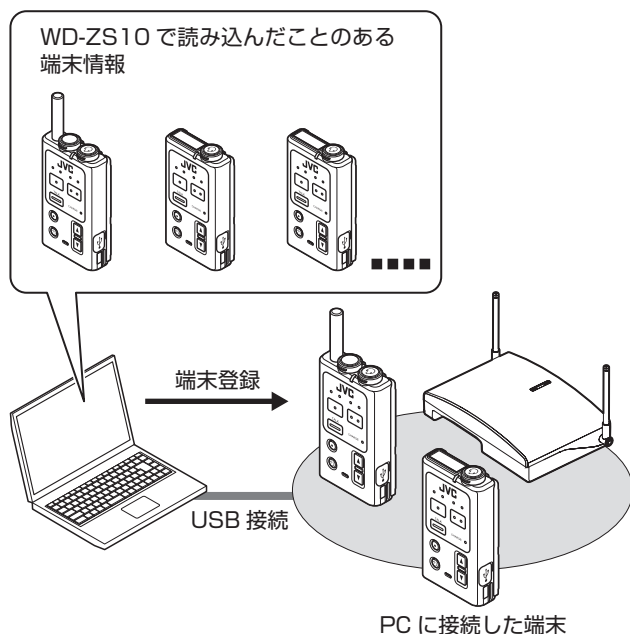
メモ

- WD-D10BS の登録モードを解除する場合は［登録］ボタンを長押しします。
- 何度も登録に失敗する場合は、最大登録数を超えている場合があります。

親機と子機を登録する（端末登録）（つづき）

設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して登録する

親機または子機を 1 台ずつ PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して親機または子機の情報を登録します。

メモ：

- PC に 2 台以上同時に端末を接続しても通信できません。通信を行う 1 台のみを接続してください。
- 設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用した端末登録方法および親機、子機と PC の接続については、「システムを設定する」（☞ 29 ページ）および WD-ZS10 ユーザーズガイドをあわせてご覧ください。
- ここでは親機または子機を 1 台ずつ PC に接続して登録する「端末登録（有線）」の方法について説明します。PC に接続した親機に無線で子機を登録する「端末登録（無線）」の方法については設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドをご覧ください。

■端末を登録する（有線）

PC に親機、または子機を接続して WD-ZS10 で読み込んだことのある端末を登録します。

はじめに子機の情報を親機に登録し、次に親機の情報を子機に登録します。

メモ：

- 親機を親機へ、子機を子機へ登録することはできません。
- 子機には親機を最大 6 台登録できますが、端末設定リストに表示される番号順と、子機で設定可能な「ベース選択」の番号で連動しています。子機を毎回決まった親機に接続させるシステムを構築する場合は、子機設定の「ベース選択」を、端末設定リストに表示される番号に合わせてください。

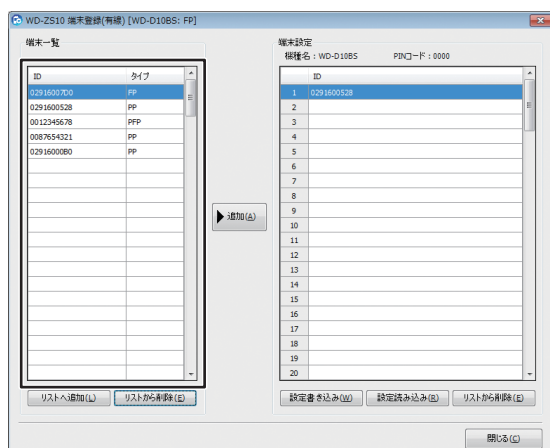
1 登録したい端末を PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する

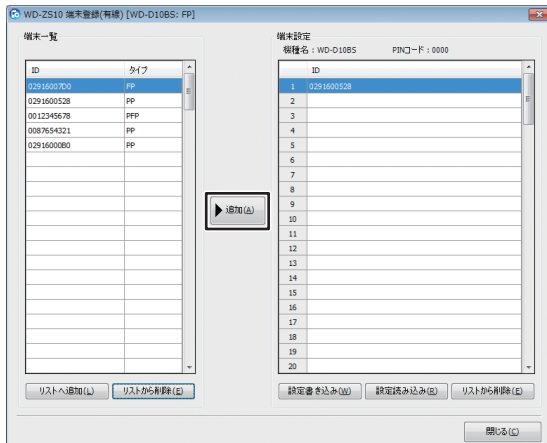
WD-ZS10 の起動方法は「設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してシステムを設定する」（☞ 31 ページ）をご覧ください。

2 ランチャーダイアログで「端末登録」をクリックする

端末登録（有線）画面が開きます。

3 端末登録（有線）画面の「端末一覧」の [リストへ追加] ボタンをクリックする

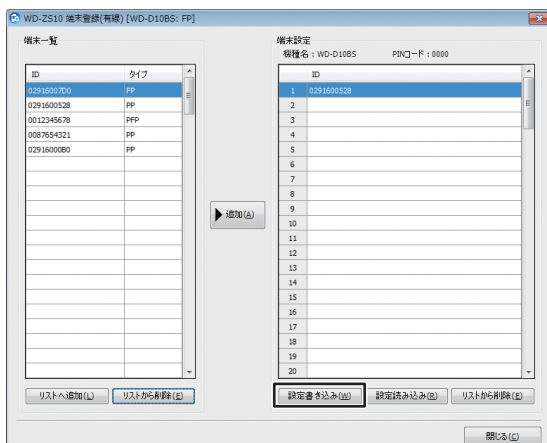
4 端末登録（有線）画面の「端末一覧」リストから、登録したい端末 ID を選択する

5 ［追加］をクリックして「端末設定」リストに追加する

選択した端末 ID が「端末設定」リストに追加されます。さらに端末を追加する場合は、手順 3 ～ 4 を繰り返します。

メモ：

- 選択した端末 ID をドラッグ＆ドロップする、または選択した端末 ID の右クリックメニューで、「端末設定へ追加」をクリックしても、「端末設定」リストに追加することができます。

- すでに「端末設定」リストに登録されている端末 ID を追加しようとした場合はメッセージが表示され、リストへの追加は行われません。

6 ［設定書き込み］をクリックする

編集したリストの内容が、接続されている端末に書き込まれます。
複数の端末に書き込みを繰り返す場合は、書き込みが済んだ端末を PC から取りはずし、登録したい端末を PC に接続してから、［リストへ追加］をクリックして、手順 3 から手順 5 の操作を繰り返します。

システムを設定する

設定ソフトウェア WD-ZS10 について

設定ソフトウェア WD-ZS10 は、デジタルインターカムシステム WD-D10 シリーズの各種設定や、接続の管理などを行うアプリケーションです。

- 各端末のシステム設定の読み込みや変更を行い、ファイルとして保存することができます。
- 接続している端末へ設定を書き込むことができます。
- 接続している端末に、他の端末を子機として登録することができます。
- 端末のファームウェアを更新することができます。

・適用機種：
　－ ポータブルベースステーション WD-D10PBS
　－ ポータブルトランシーバー WD-D10TR
　－ ベースステーション WD-D10BS

メモ：

- 設定ソフトウェア WD-ZS10 の操作説明では、WD-D10PBS、WD-D10TR、WD-D10BS を「端末」と表記しています。
- 設定方法については以下の WEB サイトの製品情報ダウンロードより WD-D10 シリーズ取扱説明書（PDF ファイル）および WD-ZS10 ユーザーズガイド（PDF ファイル）をダウンロードしてください。
  http://www3.jvckenwood.com/pro/avc/product/wd-d10/index.html

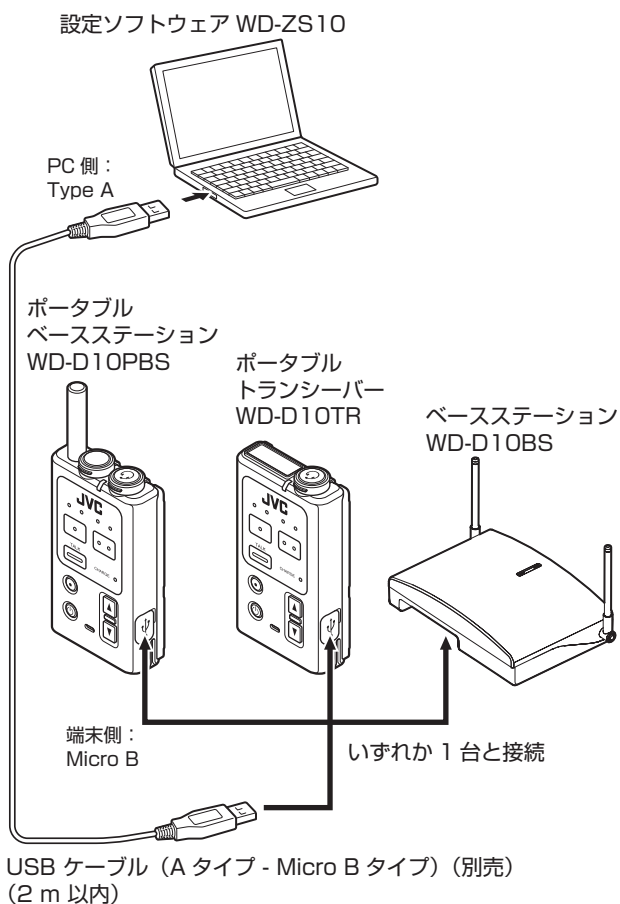
  設定ソフトウェア WD-ZS10 は以下の WEB サイトよりダウンロードしてください。
  http://www3.jvckenwood.com/pro/soft_dl/wd-d10/index.html

システムを設定する（つづき）

PC と接続する

設定ソフトウェア WD-ZS10 をインストールした PC と、デジタルワイヤレスインターカムシステム WD-D10 シリーズの端末（WD-D10PBS、WD-D10TR、WD-D10BS）を接続します。

メモ：
- PC に 2 台以上同時に端末を接続しても通信できません。通信を行う 1 台のみを接続してください。

USB ケーブル（A タイプ - Micro B タイプ）（別売）
（2 m 以内）

ご注意：
- WD-D10PBS と WD-D10TR のデータ設定端子から USB ケーブルをはずしたあとは、端子キャップを必ず取り付けてください。端子キャップを取り付けるときは中に押し込んでキャップが浮かないようにしてください。キャップに浮きがあると防水性能に影響を与える場合があります。

サービスモードについて

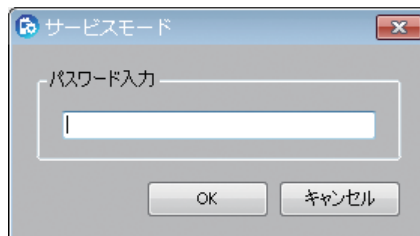
設定ソフトウェア WD-ZS10 は、インストール直後の状態では一部のサービス用設定項目が使用できません。
サービス用の設定を行うには、ファイルメニューの「オプション」から「サービスモード」を起動する必要があります。

メモ：
- サービスモードで表示されるサービス用設定項目については「設定ソフトウェア WD-ZS10 のサービスモードで表示される設定項目」（☞ 39 ページ）をご覧ください。

1 **設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する**

2 **ランチャーダイアログで「オプション」―「サービスモード」をクリックする**

3 **「パスワード入力」欄に “12345678” と入力し、[OK] をクリックする**

サービスモードが起動し、一部の設定項目が表示されます。

メモ：
- 一度サービスモードで起動すると、次回以降もサービスモードで起動します。
- サービスモードを解除するには、手順 3 の画面で “11111111” と入力します。

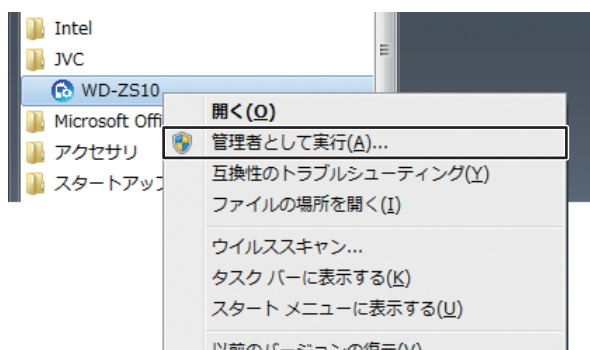
設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してシステムを設定する

親機および子機のシステム設定を行います。
ここでは WD-ZS10 を起動し、システム設定を各機器に書き込むまでの流れについて説明します。
設定項目の詳細については WD-ZS10 のユーザーガイドをご覧ください。

メモ：

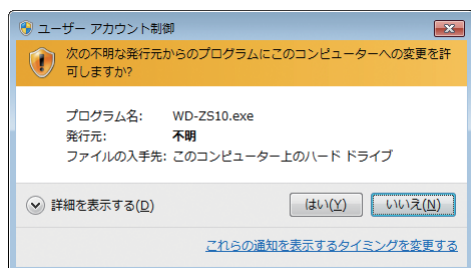
- WD-D10PBS および WD-D10TR は、PC に接続せず、本体のボタンを使用して簡単な設定を行うことができます（設定メニューモード）。詳しくは WD-D10PBS/WD-D10TR の取扱説明書をご覧ください。

1 スタートメニューで「スタート」―「すべてのプログラム」―「JVC」の順にクリックする

2 「WD-ZS10」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックする

※ 画面は Windows 7 のものです。

ランチャーダイアログが起動します。

メモ：

- WD-ZS10 は、スタートメニューの「WD-ZS10」を右クリックして表示される「管理者として実行」から起動しないと使用できません。
- お使いの PC の設定によっては、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。［はい］をクリックしてください。

3 ランチャーダイアログで「システム設定」をクリックする

接続されている端末のシステム設定データを自動的に読み込んで表示します。

メモ：

- 端末が接続されていない場合は、前回設定したモデルの初期値が表示されます。（はじめて起動する場合は、WD-D10PBS（親機モード）の初期値が表示されます。）端末を接続せずに設定を続ける場合は、設定するモデルを選択してください。詳しくは WD-ZS10 のユーザーガイドをご覧ください。

4 設定する項目のタブをクリックし、設定を変更する

表示されるタブや設定項目は、設定するモデルによって異なります。詳しくは WD-ZS10 のユーザーガイドをご覧ください。

システムを設定する（つづき）

設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用してシステムを設定する（つづき）

5 ［設定書き込み］をクリックする

メモ：

- 設定を書き込まずに PC に保存するときは［保存］をクリックします。

6 ［OK］をクリックする

接続している端末に変更した設定が書き込まれます。
WD-D10PBS および WD-D10TR はこの時点で設定内容が反映されます。

7 WD-D10BS に設定内容を反映させる

WD-D10BS に端末が接続されている場合は、この時点で設定内容は反映されていません。
以下のどちらかを実施し、設定内容を反映させてください。

- 接続しているすべての端末の電源を切る
- WD-D10BS の電源を入れなおす

リスニングモードを設定する

リスニングモードは使用できる環境や子機の動作に制限がありますが、少ないベースステーションでより多くの子機を運用することができます。特定の人のみ指示や返事を行い、他の人はその内容を聞くことだけが多い場合などに有効です。
リスニングモードで子機を使用するには、以下の設定が必要です。

- 子機の登録（☞ 26 ページ）
- 子機のモード切り換え（☞ 32 ページ）
- リスニングトーク解除時間の設定（☞ 33 ページ）

■各モードの動作 LED と音声ガイド

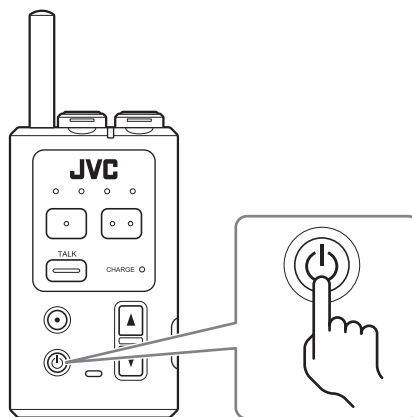
子機モード（グループ通話モード）とリスニングモード起動時の動作 LED の表示と音声ガイドは下表のとおりです。

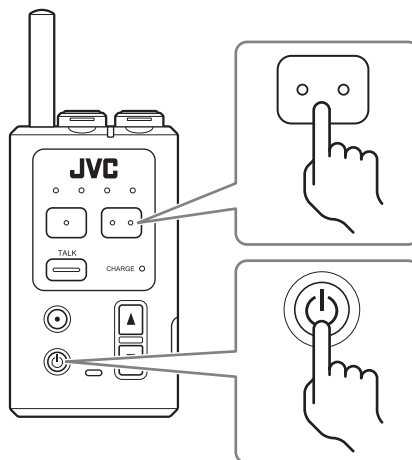
起動モード	LED の表示	モード起動時の音声ガイド
子機モード（グループ通話モード）	緑点滅	トランシーバー
リスニングモード	青点滅（トーク中は緑点滅）	リスニング

■子機のモード切り換え

子機をリスニングモードに切り換えます。モードの切り換えは子機本体を操作する方法と設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用する方法があります。

● 子機本体を操作して切り換える

1 子機の電源が入っている場合は、［電源］ボタンを 2 秒以上長押しして電源を切る

2 ［機能 2］ボタンを押しながら、［電源］ボタンを長押しする

電源が入り、リスニングモードが起動します。音声ガイドが行われ、動作 LED が青色に点滅します。
モードが切り換わると自分が所属する通話グループの会話が聞こえます。

リスニングモード中に再度同じ操作をすると、グループ通話モードで起動します。

メモ：

- モードを切り換えたあとは、再度切り換え操作を行うまではモードが固定されます。

● 設定ソフトウェア WD-ZS10 を使って切り換える

メモ：
- 設定方法については、設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドもあわせてご覧ください。

1 子機を PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する

2 ランチャーダイアログで「システム設定」をクリックする

3「システム」タブをクリックする

4「運用モード」欄で「リスニングモード」を選択する

5［設定書き込み］をクリックする

6［OK］をクリックする

接続している端末に変更した設定が書き込まれます。

■ リスニングトーク解除時間の設定

「リスニングトーク解除時間」を設定することで、リスニングトーク中の子機がトーク状態から受信のみを行うモードに戻るまでの時間を変更できます。
リスニングトーク解除時間は、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して設定します。

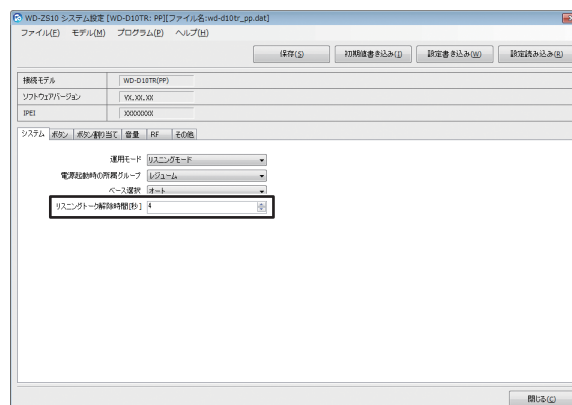
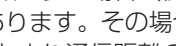
メモ：
- 設定方法については、設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドもあわせてご覧ください。

1 子機を PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する

2 ランチャーダイアログで「システム設定」をクリックする

3「システム」タブをクリックする

4「リスニングトーク解除時間」欄に解除時間を入力する

0 秒から 10 秒の間で設定できます。

5［設定書き込み］をクリックする

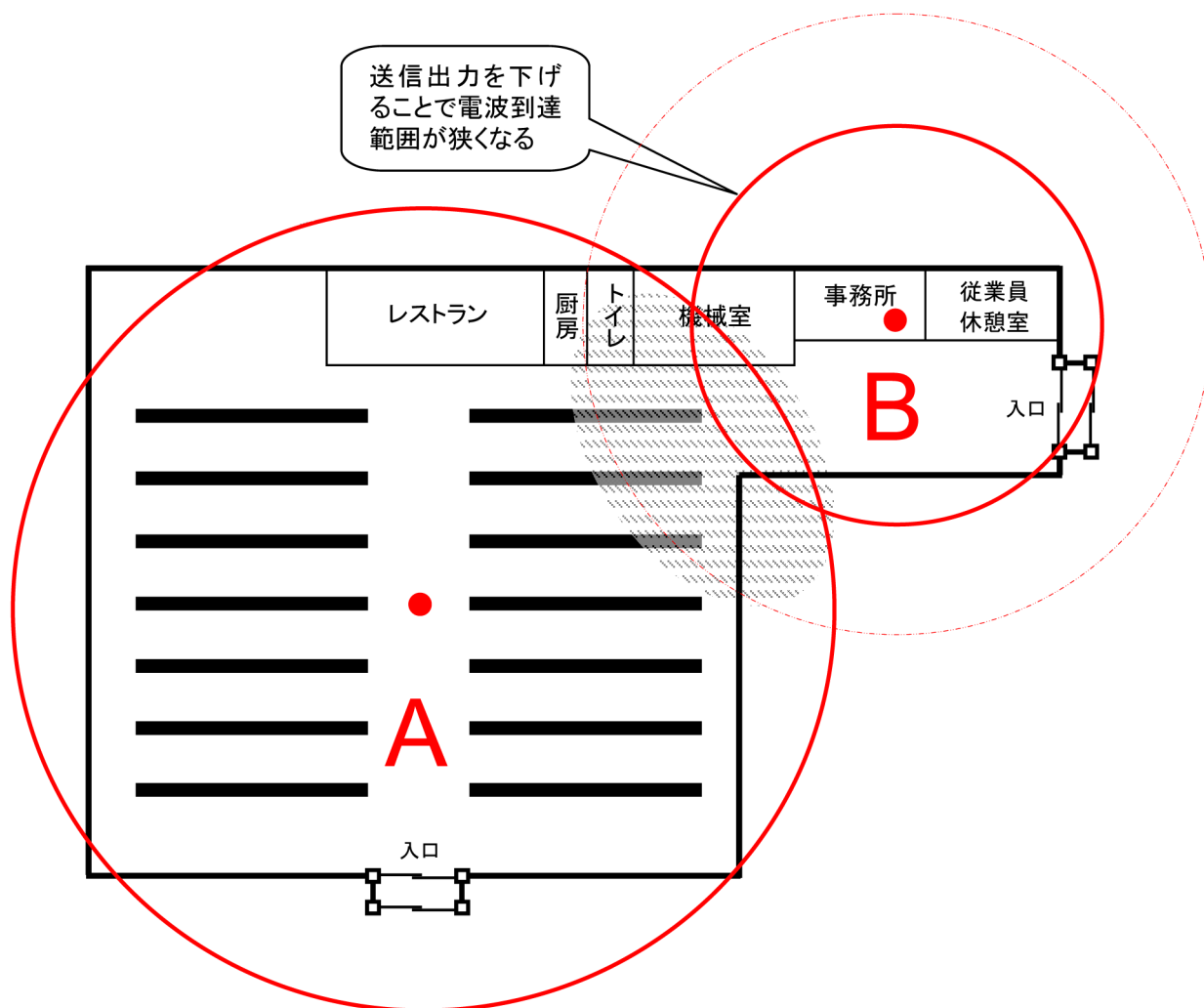
6［OK］をクリックする

接続している子機に変更した設定が書き込まれます。

システムを設定する（つづき）

ベースステーションの送信出力を選択する

ベースステーションの送信出力を低下させる機能です。例えば下記のようなケースで有効な場合があります。
ベースステーションが複数のエリアに設置される場合、かつ子機台数が多い場合（例えば 10 台程度）だと、チャンネル数の制約から A のエリアと B のエリアで同じチャンネルを使う場合があります。その場合に子機が図の のエリアで干渉を起こしノイズを発生する可能性があります。そのようなときに、あまり通信距離の必要のない事務所などのバックヤードに設置されたベースステーションの送信出力を低下することにより、干渉を低減させてノイズを減らす効果があります。

●：ベースステーション配置場所の目安

ご注意：

- 通信距離に影響があるので広いエリア側の送信出力は下げないでください。また狭いエリア側の送信出力を下げる場合にも、事前に十分な検証を行なって通話に支障が出ないことを確認してください。
- 本機能はエリア分けを目的とした機能ではありません。

■ベースステーションの送信出力を設定する

設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して設定します。

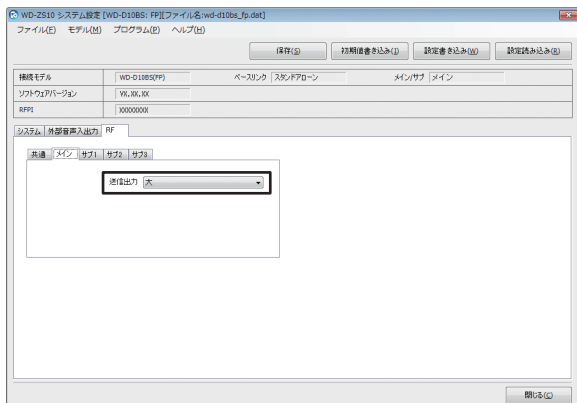
メモ：
- ● 設定方法については、設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドもあわせてご覧ください。

1 WD-D10PBS（親機モード）または WD-D10BS（ベースリンク型システムの場合はメイン親機）を PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する

2 ランチャーダイアログで「システム設定」をクリックする

3 「RF」タブをクリックする

4 （WD-D10BS のみ）「メイン」「サブ 1」「サブ 2」「サブ 3」から設定したいベースステーションを選択する

5 「送信出力」を「小」または「大」に設定する

画面は WD-D10BS で設定した場合のものです。

6 （WD-D10BS のみ）「ベースリンク」欄の表示が「取得中」でないことを確認する

7 ［設定書き込み］をクリックする

8 ［OK］をクリックする

接続している端末に変更した設定が書き込まれます。

メモ：
- ● WD-D10BS をベースリンク型システムで運用しているときは、メイン親機となる WD-D10BS を PC に接続しないと、サブ親機の設定内容を書き込むことはできません。

9 WD-D10BS に設定内容を反映させる

WD-D10BS に端末が接続されている場合は、この時点で設定内容は反映されていません。
以下のどちらかを実施し、設定内容を反映させてください。

- 接続しているすべての端末の電源を切る
- WD-D10BS の電源を入れなおす

システムの動作確認をする

子機の接続状況を確認する

ベースステーション設置後、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用して、システムのサービス提供エリア内における登録済みの子機がベースステーションに接続したときの接続状況（接続に用いられる PCM チャンネルや子機の IPUI）を確認できます。これにより、簡易的にシステムのサービス提供エリア外（圏外）になるエリアや、使用できる電界強度のエリア（圏内）を知ることができます。
なお、この機能は簡易的なものですので、電界強度の測定には PHS アナライザや DECT アナライザを併用してください。

● ご参考

- ベースステーションの設置場所には、登録したすべての子機を、使用したいすべての場所で実際に運用したとき、接続状況表示画面に子機の IPUI が常に表示される場所を選定します。
- 端末の信号を受信するときに、周囲の状況によってレベルが変化します。端末の近くに人影があったなどでも変化しますので、測定する地点で複数回確認してください。また、歩いたり止まったりして実際の通話を伴う運用を行い、通話品質を確認しながら行なってください。
- 測定機器で使用するアンテナと、端末で使用しているアンテナでは利得差がありますので、測定値にご注意ください。

メモ：

● 接続状況の確認方法については、設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドもあわせてご覧ください。

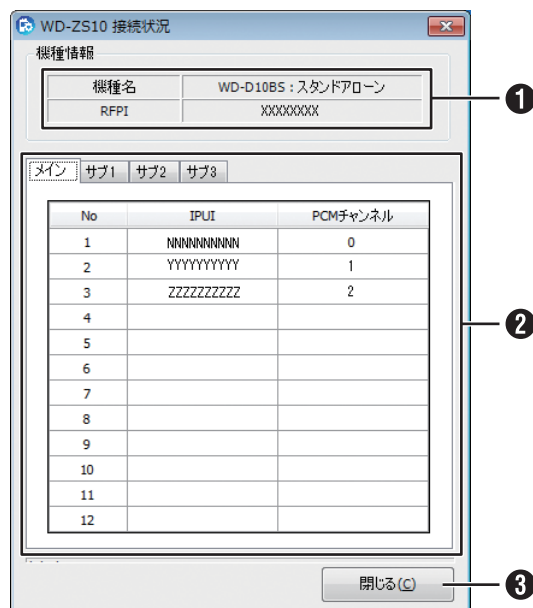
1 **WD-D10PBS（親機モード）または WD-D10BS（ベースリンク型システムの場合はメイン親機）を PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する**

2 **ランチャーダイアログで「接続状況表示」をクリックする**

接続状況表示画面が開きます。

メモ：

● 子機を PC に接続している場合は、接続状況表示は使用できません。

● 接続状況表示画面

❶ 機種情報

項目	内容
機種名	PC に接続されている親機のモデル名を表示します。
RFPI	端末 ID を表示します。

❷ 接続状況表示部

メイン、サブ 1 ～ 3 のそれぞれのタブのスロット接続状況を確認できます。

項目	内容
No	スロット 1 ～ 12 までを表示します。
IPUI	各スロットに接続している子機の ID を表示します。
周波数チャネル	各スロットに接続されている子機の周波数チャネルを表示します。

❸［閉じる］ボタン

接続状況表示画面を閉じます。

切断レベルを設定する

周辺環境や運用状況などから端末が発射する信号の電界強度に影響が出て、サービス提供エリア外（圏外）が多くなってしまう場合、「通信切断ゾーン選択レベル」と「通信切断判定時間」の調整を行うことで多少改善する場合があります。設定を変更するときは 3 dB 程度ずつ変更して、動作チェックしながら設定値を決定してください。
切断レベルの設定は、設定ソフトウェア WD-ZS10 を使用します。

ご注意：

● 「通信切断ゾーン選択レベル」や「通信切断判定時間」を調整する場合は、設定ソフトウェア WD-ZS10 をあらかじめサービスモードにしてください。(☞ 30 ページ)
サービスモードでない場合、「通信切断ゾーン選択レベル」や「通信切断判定時間」は表示されません。

メモ：

● 切断レベル以外の設定方法については、設定ソフトウェア WD-ZS10 ユーザーズガイドをご覧ください。

1 **WD-D10PBS（親機モード）または WD-D10BS（ベースリンク型システムの場合はメイン親機）を PC に接続し、設定ソフトウェア WD-ZS10 を起動する**

2 **ランチャーダイアログで「システム設定」をクリックする**

3 **「RF」タブをクリックする**

4 **（WD-D10BS のみ）「メイン」「サブ 1」「サブ 2」「サブ 3」から設定したいベースステーションを選択する**

5 **「通信切断ゾーン選択レベル」および「通信切断判定時間」の設定値を変更する**

ご注意：

● 「通信切断ゾーン選択レベル」を低く設定すると、使用環境によりノイズが発生する場合があります。

画面は WD-D10BS で設定した場合のものです。

・ 通信切断ゾーン選択レベル
現在接続している子機との通信を切断する電界強度のレベルを設定します。
- 設定値：標準、－ 100 ～ － 30 dBm
（初期値：－ 82 dBm）

・ 通信切断判定時間
現在接続している子機が圏外にあると判定するまでの時間を設定します。
- 設定値：1 ～ 10 秒（初期値：3）

6 **（WD-D10BS のみ）「ベースリンク」欄の表示が「取得中」でないことを確認する**

7 **［設定書き込み］をクリックする**

8 **［OK］をクリックする**

接続している端末に変更した設定が書き込まれます。

メモ：

● WD-D10BS をベースリンク型システムで運用しているときは、メイン親機となる WD-D10BS を PC に接続しないと、サブ親機の設定内容を書き込むことはできません。

9 **WD-D10BS に設定内容を反映させる**

WD-D10BS に端末が接続されている場合は、この時点で設定内容は反映されていません。
以下のどちらかを実施し、設定内容を反映させてください。

・ 接続しているすべての端末の電源を切る
・ WD-D10BS の電源を入れなおす

設定データをバックアップする

動作の確認が終了したら、システム設定データを PC に保存して、バックアップデータを作成します。
設定ソフトウェア WD-ZS10 のシステム設定画面で「保存」をクリックし、バックアップデータを保存する場所を選択します。

これで、システムデータ設定は終了です。

設定ソフトウェア WD-ZS10 のサービスモードで表示される設定項目

設定ソフトウェア WD-ZS10 をサービスモード（☞ 30 ページ）で起動したとき、システム設定画面に追加で表示される項目は以下のとおりです。

ご注意：
- サービスモードでの設定項目は、不適切な値が設定されると通話品質や接続状況に影響を与えることがあります。設定値の変更は機能をよく理解したうえで行なってください。詳細については、お近くのサービス窓口にお問い合わせください。

● ポータブルベースステーション WD-D10PBS

サービスモード設定項目	タブ	内容
グループ通話	外部入出力音声	「モード」設定で「グループ通話」が選択できます。
グループモニター	外部入出力音声	「モード」設定で「グループモニター」が選択できます。
制御端子連動	外部入出力音声	「モード」設定で「外部無線連絡」を選択したとき、「外部無線連絡」設定で外部機器制御端子機能と連動するかどうかを設定します。
ノイズキャンセル	音量	ノイズキャンセル機能のオン / オフを設定します。
エコーキャンセル	音量	エコーキャンセル機能のオン / オフを設定します。
通信切断ゾーン選択レベル	RF	接続している端末との通信を切断する信号強度を設定します。
通信切断判定時間	RF	端末の信号強度が「通信切断ゾーン選択レベル」で設定した値以下の状態を継続し、切断するまでの時間を設定します。
充電時端末動作	その他	端末を充電器に装着したとき、端末の電源を自動で切るか、切らないかを設定します。

● ポータブルトランシーバー WD-D10TR

サービスモード設定項目	タブ	簡易説明
受信電波強度確認	ボタン割り当て	機能 1 ボタン､機能 2 ボタンおよび一斉ボタンに「受信電波強度確認」が設定できます。
ノイズキャンセル	音量	ノイズキャンセル機能のオン / オフを設定します。
エコーキャンセル	音量	エコーキャンセル機能のオン / オフを設定します。
通信切断ゾーン選択レベル	RF	接続している端末との通信を切断する信号強度を設定します。
通信切断判定時間	RF	端末の信号強度が「通信切断ゾーン選択レベル」で設定した値以下の状態を継続し、切断するまでの時間を設定します。
充電時端末動作	その他	端末を充電器に装着したとき、端末の電源を自動で切るか、切らないかを設定します。

● ベースステーション WD-D10BS

サービスモード設定項目	タブ	簡易説明
通信切断ゾーン選択レベル	RF	接続している WD-D10TR との通信を切断する信号強度を設定します。
通信切断判定時間	RF	端末の信号強度が「通信切断ゾーン選択レベル」で設定した値以下の状態を継続し、切断するまでの時間を設定します。

WD-D10 シリーズ デジタルワイヤレスインターカムシステム

JVCケンウッド
カスタマーサポートセンター

0120–2727–87

携帯電話・PHS・一部のIP電話・FAXなどからのご利用は
電話 (045)450-8950［代表］
FAX(045)450-2308
〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ホームページ http://www3.jvckenwood.com/

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

B5A-0479-00